

M-AUDIO® M3-6

ユーザガイド

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク

-  このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。
-  このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。
-  このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を読んでください。
2. 注意事項を守ってください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。
液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むそのほかの音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないでください。
9. 電源ブラクは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフター・サービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所をご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。

[WEB] <http://m-audio.jp/>

M-AUDIO® <お問い合わせ>

株式会社ニューマークジャパンコーポレーション

カスタマ・サポート部

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23

オーク南麻布ビルディング6階

TEL : 03-6277-2231 FAX : 03-6277-0025

ユーザガイド

はじめに

M-Audio M3-6 (3 ウェイ・アンプ内蔵・スタジオモニター) をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。中域ドライバと高域ドライバを同軸 (インライン) に配することで、標準的な 2 ウェイ・モニターと同じサイズで、3 ウェイ・モニターだけが提供できる忠実度の高い優れた音質、広いスイートスポットを実現したスタジオ・リファレンス・モニターです。

同梱物

- ・ M3-6 スタジオモニター x 1
- ・ AC 電源ケーブル x 1
- ・ ノン・スリップ・パッド x 1
- ・ User Guide (英文)
- ・ Safety & Warranty Manual (英文)

仕様

周波数特性：	50Hz ~ 20kHz
クロスオーバー周波数：	Low-Mid：400Hz、Mid-High：4kHz
定格出力：	低域：110W、中域：30W、高域：20W
ローカットフィルタ：	flat、80Hz、100Hz
イコライザ・コントロール：	低域：± 6 dB at 100Hz、中域：± 6 dB at 1kHz、高域：± 6 dB at 10kHz、バイパススイッチ
極性：	+入力時、正の信号で、LFドライバを外側へ駆動
入力インピーダンス：	20kΩ バランス、10kΩ アンバランス
入力感度：	85mV ピンクノイズ入力で 90dBa 出力 SPL (1メートル; ボリュームコントロール最大)
出力：	160W
保護回路：	出力電流制限、加熱保護、電源オン / オフ過渡保護、サブソニック・フィルタ、外部メイン・ヒューズ
キャビネット：	ビニル・ラミネート仕上げの木製ベニヤフロントバッフル
サイズ (W x H x D)：	約 235 x 391 x 230 mm
重量：	約 10.4 kg

※ 仕様は断りなく変更になる場合がございます。ご了承ください。

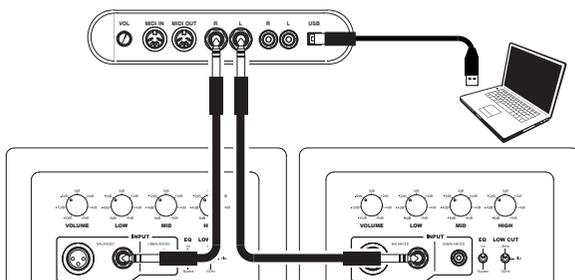
接続例

M-Audio M3-6 の入力端子は、バランス型の XLR 端子と 1/4" 標準フォン端子、アンバランス型の RCA 端子を装備しています。お手持ちのオーディオ・インターフェイスやミキサ、その他ラインレベルの出力をこの端子に接続できます。

ヒント：お手持ちのオーディオ・インターフェイスやミキサ、その他のオーディオ・ソースの出力端子がバランス型に対応している場合は、M3-6 のバランス型の XLR 端子や 1/4" 標準フォン端子に接続されることをお勧めします。バランス型で接続された方が、外部からのノイズに強く、信号の受け渡しには優れています。もし、アンバランス型の RCA 端子で接続される場合は、なるべくケーブルの長さを短くした方がよいでしょう。

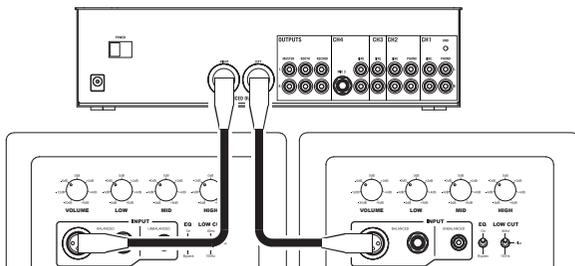
例1

オーディオ・インターフェイス
(バランス TRS - バランス TRS)



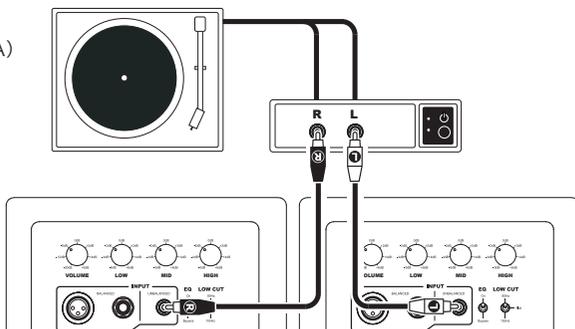
例2

ミキサ
(バランス XLR - バランス XLR)



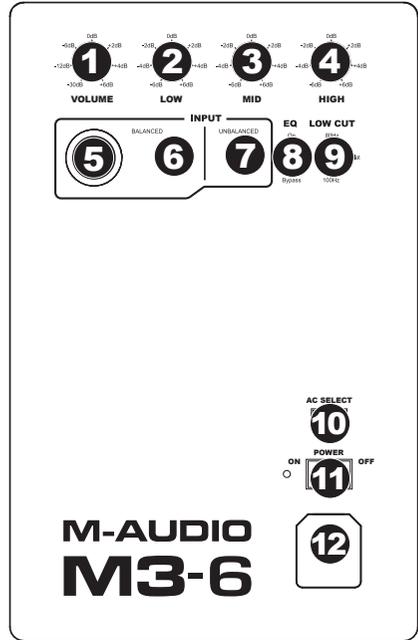
例3

プリアンプ
(アンバランス RCA - アンバランス RCA)



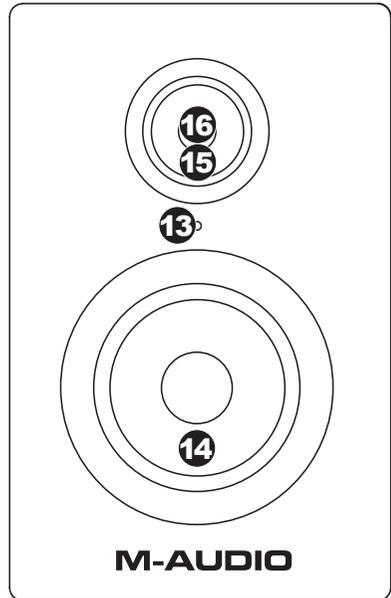
パネル概要

- ボリューム・ノブ**：3つの入力端子（XLR、1/4"、RCA）の音量を調整します。時計回りに回すことで音量が大きくなります。12時方向が標準設定で、接続されている入力ソースによって加減を調整します。
- 低域EQ**：設置環境に合わせて、低域のブーストやカットを行います。100Hzで6dBのブースト&カットが可能です。12時方向が標準設定です。
- 中域EQ**：設置環境に合わせて、中域のブーストやカットを行います。1kHzで6dBのブースト&カットが可能です。12時方向が標準設定です。
- 高域EQ**：設置環境に合わせて、高域のブーストやカットを行います。10kHzで6dBのブースト&カットが可能です。12時方向が標準設定です。
- XLR入力端子（+4dBu）**：ラインレベルのバランス型XLRケーブルを接続します。
- 1/4"入力端子（+4dBu）**：ラインレベルのバランス型1/4"標準フォンTRSケーブルを接続します。
- RCA入力端子（-10dBV）**：ラインレベルのアンバランス型のRCAケーブルを接続します。
- EQバイパス・スイッチ**：EQのオン・オフを切り替えます。バイパスにすると、EQの3つのノブがどのような状態にあってもEQは適用されません。
- ローカット・スイッチ**：3段階でローカットを設定できます。
 - ・Flat：ローカットされません。
 - ・80Hz：80Hz以下をフィルタします。
 - ・100Hz：100Hz以下をフィルタします。
- 電圧選択スイッチ**：100-120Vと220-240Vから選択できます。お使いになる場所の電圧に合わせてどちらかを選択します。通常、アメリカや日本では100-120V、イギリスやヨーロッパでは220-240Vを使用します。
- 電源スイッチ**：電源のオン/オフを切り替えます。
- 電源コンセント**：電源を供給する3芯のソケットを差し込みます。



M-AUDIO

13. 電源 LED : 電源をオンにすると点灯します。
14. ウーファ (ローレンジ・スピーカ)
15. スコーカ (ミッドレンジ・スピーカ)
16. ツイータ (ハイレンジ・スピーカ) : スコーカとツイータは同軸 (インライン) に設置されています。

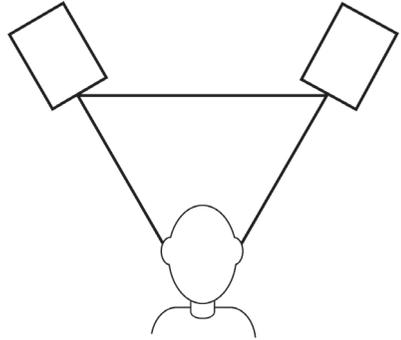


設置

スピーカの設置は、サウンドを正確にモニタする上で最も大切なことのひとつです。M3-6 の性能を最大限に発揮してモニタするには、適切なリスニングの環境にスピーカを適切に設置する必要があります。以下の説明をよくお読みの上、M3-6 を正しい位置に設置してください。

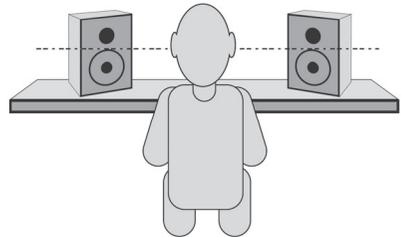
スピーカの位置

エンジニアと 2 台のスピーカが、上から見た際に逆三角形を描くように配置します。一般的には、壁や天井などから M3-6 を最低 30cm 以上離して置くことをお勧めします。もし、そのような環境に設置できない場合は、環境に合わせて、M3-6 の EQ を調整してください。



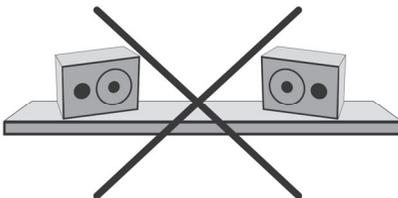
スピーカの高さ

リスニングポイントでの耳の位置が、ほぼウーファとスクーカ / ツイータの間に来るように調整します。



スピーカの向き

M3-6 は、立てて設置（縦置き）することを想定して、最適化されています。縦置きでご使用されることをお勧めします。使用環境によってどうしても縦置きできない場合は、スクーカ / ツイータが内側に来るように設置してください。



EQの調整

M3-6には、3バンドのEQが装備されており、設置環境に合わせて周波数帯のカーブを調整できるようになっています。本来、(M-Audio製に限らず)スタジオ・モニタというものはフラットな周波数特性で設計されていますが、何故EQでコントロールするのでしょうか。理由は3つあります。

1. 使用環境

M3-6は、フラットな無響室でテスト、調整されています。つまり、予めEQノブを初期状態の12時方向に設定した場合に、ハイエンドのレコーディング・スタジオでモニタするような理想的な環境でのモニタリングに近づけるようにセッティングされています。これらのレコーディング・スタジオは、コントロール・ルームの広さや形状、モニタ・スピーカの設置位置、家具や壁、天井などすべて音響的に最適に設計されていて、ミキシング・ポジションで正確な音を確認できるようになっています。

ただ実際には、多くのプロジェクト・スタジオはこのような恵まれた環境にはなく、部屋の広さや形状、壁、天井などの位置が、音響的に理想的とは言えないことが多いでしょう。そのような理由で、M3-6には3バンドのEQが装備されており、それらを補正することを可能にしました。

2. 設置場所

M3-6の設置場所が、壁（や床、天井など）に近いと、ミキシング・ポジションにおいて周波数特性に影響を及ぼします。これは、すべてのスピーカにおいて低音域の周波数帯は正面ではなく全方位に伝播しますので、スピーカ周辺の状態によって、音の反射が起きてしまうからです。M3-6のEQはこれらの補正にも役立ちます。

3. サブ・ウーファの使用

もし、M3-6とサブ・ウーファを併用される場合に、低音域はサブ・ウーファに任せ、M3-6に中高音域を担当させることになります。そのような場合にも、EQやローカット・フィルタでM3-6の低域を絞るなどして、最適に使用することができます。

高域の調整: 10kHzの高域帯を±6dBの範囲で調整できます。まずはノブを12時方向(0dB)の位置に設定し、何曲かをミックスしてみてください。そのミックスを他のスタジオや他のスピーカ（カー・ステレオやコンピュータに接続しているスピーカなどでも）で聴いてみて、印象がそれほど変わらないようでしたら、M3-6のEQノブはそのままで構いません。

もし、他の環境で聴いた際に、もさっとしていたり、高域の弾ける感じが欠けるような場合は、M3-6のHIGH EQを-2や-4、または-6dBに設定してみてください。逆に、他の環境で聴いた場合に、カリカリした感じや甲高い感じがする場合には、M3-6のHIGH EQを+2や+4、または+6dBに設定してみてください。

中域の調整: 1kHzの中域帯を±6dBの範囲で調整できます。これもまた、まずはノブを12時方向(0dB)の位置に設定し、何曲かをミックスしてみてください。そのミックスを他のスタジオや他のスピーカ（カー・ステレオやコンピュータに接続しているスピーカなどでも）で聴いてみて、印象がそれほど変わらないようでしたら、M3-6のEQノブはそのままで構いません。もしボーカルやギターなどがうるさく感じるようなことがあれば、M3-6のMID EQを+2や+4、または+6dBに設定してみてください。

低域の調整: 100Hzの低域帯を±6dBの範囲で調整できます。これもM3-6でミックスした曲を他のスタジオや他のスピーカで聴いてみて、ローエンドが膨らみすぎている感じがあれば、M3-6のLOW EQを+2や+4、または+6dBに設定してみてください。

m-audio.jp